

普及活動情勢報告（平成27年4月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

情勢報告

進めよう集落営農！ ・・・農事組合法人 四万十川営農組合が設立されました・・・	
	4月5日に四万十市西土佐藤ノ川集落において、組合員26名が出資する「農事組合法人 四万十川営農組合」の設立総会が開催されました。 幡多管内では5番目の集落営農法人となり、稲作栽培と作業受託を中心に経営を行う予定で、平成27年度には法人の活動拠点となる倉庫や機械の導入を計画しています。 振興センターでは法人の活動支援を継続して行っています。
進めよう集落営農！ ・・・下益野集落で座談会を実施・・・	
	4月21日、土佐清水市下益野集落で集落の若手や農家23名が参加し座談会が行われました。 座談会では、土佐清水市から地域の農業の現状を、振興センターからは集落営農の必要性について報告した後、意見交換を行いました。 意見交換では「自分は水稻を作っていないが、組織ができれば機械に乗るなど協力したい。」といった意見が出され、集落営農組織設立のための準備委員会を設置する事となりました。 振興センターでは、組織設立に向けての規約の作成など体制整備の支援を行っています。
産地間交流をしてきれいなミョウガ出荷を目指す・・・目慣らし会の実施・・・	
	4月3日に宿毛で、同22日に大方でミョウガ部会目慣らし会を行いました。 宿毛での目慣らし会では大方から農家の代表と営農指導員も参加し高品質な出荷を目指して目合わせを行いました。また、新たな収穫ばさみを使用した感想と農薬の天敵への影響や各農家の生育状況を共有しました。 参加者からは「慣れないはさみは使いづらいがきれいに切れる。」「花蕾の色づきは良いが、花先の緑や実のしまりに注意して選別しよう。」といった声が聞かれ、活発な情報交換を行いました。幡多管内では品質統一を図るために今後も両産地間合同の目慣らし会を実施する予定です。 振興センターでは今後も省エネ対策や炭酸ガス施用試験について、勉強会などを行っています。

ラッキョウの有利販売に向けた取り組み・・・ラッキョウ試験掘り及び販売会議・・・



幡多地区は日本一早い出荷が特徴のラッキョウ産地として知られています。4月14日、生産者とJAをはじめとした関係機関が共に、土佐清水市、四万十市、黒潮町の栽培ほ場を巡回し、ラッキョウの品質を確かめて収穫始めの時期を検討しました。

今年は雨が多く出荷の遅れが懸念されましたが、十分な品質であり例年どおりの時期に決まりました。振興センターは、次作に向けたネダニなどの病虫害防除対策などについて助言しました。

今後も、消費地の期待を裏切らない品質のラッキョウ生産となるよう取り組んでいきます。

セル移植栽培の推進

・・・オクラ現地検討会の開催・・・



4月22日、土佐清水市大岐でセル苗移植栽培の現地検討会を開催しました。今年度、管内のハウス栽培では10戸の農家で移植栽培が行われており、振興センターからはセル苗の利用に係る問題点や対策について紹介しました。

生産者からは育苗方法、定植後のかん水や温度管理などについて多くの質問が出され、関心の高さがうかがえました。

振興センターでは、早急に栽培技術を確立し、普及を進めていきます。

「着花過多樹の芽を出すには?」「落葉ひどいけど切る?」・・・土佐文旦剪定講習会・・・



4月7日、国営農地竹島団地で、後継者や被雇用者等若手作業員向けに土佐文旦の剪定講習会が行われました。振興センターからは、3名の講師の競演により、各管理作業の効率化・高品質化・枝幹の日焼け防止等の観点から、剪定を実演しました。会場は着花の多少・樹形の完成度の違いがある3つの園を順番に巡り、いろんな状態の樹がコンパクトに変わりました。

収量重視しがちの生産者も、改造された樹を見て作業能率の向上が大事だと納得していました。